

学 校 生 活 の 思 出^(※1)中第 19 回卒 草 野 重 節^(※2)

はじめて村を出た中学校生活、小学校6年から2名、高等小学校から2名と、同村4名は百名の中学1年生の仲間入りして勉学を競うことになった。生徒扣所に全校生徒が休憩時間をとりに過ごし、授業のラッパとともに各教室に別れて授業をうけた。しかも出席簿や机は毎学期成績順というきびしさ。今時なら人権問題にもなりかねないことだった。こうして5年間、遂に卒業は約半数の58名。

通学風景

汽車の便も悪く、勿論バスもない。北は新地から南は上真野からと約10キロの道を往復徒歩(テクると言うていたが)。遠い生徒は寄宿舎、下宿などさまざま、乗馬で風を切って通った友もいた。私は日立木から約5キロの松並木の国道を、風呂敷包の教科書を頸に、前には弁当箱を下げて釣合をとり、朴歯の下駄履の出で立ち。これでも試験期間などは英単語帳やノートなど出して暗記しながら閑散な国道を通い続けた。もっともおいおい自転車が流行し出し、自転車通学もかなり増えたが。下校時は数団に分れて帰路についたものの、長い道中女学生とやじり合いをするようなこともあったが、衆寡敵せずで女生徒の集団からやり返しを受けたこともしばしば、なかなか女子も侮り難かった。

勉強の一齣

同級生でも3、4才の差があり、6年から入学した者はまだ素朴で純だった。学期末試験など2時間位で帰宅できるのを幸に気分転換も加わって魚釣りに出かけ、それでも翌日の試験科目のノートを懐に、遂に魚が釣れてノートを川に落とし、インキがふやけて弱ったなどのナンセンス。学年試験は教科書全部の範囲から出題ということで徹夜の勉強もしたことがあった。地理(今の社会科の一部)の答案は毛筆で書いて提出させられたものだ。相中は県内での有名校で上級学校への入学成績もよく幾多の俊才が出ている。

各先生方の授業もほんに熱が入っていて授業中の指名もきびしく、かなり予習をやっておかねばならなかった。いま暇に浮ぶ高橋^(※3)先生、佐藤^(※4)先生の英語、数学の松岡^(※5)先生、菊地^(※6)先生、漢文の吉成^(※7)先生、小林^(※8)先生、地理の成田^(※9)先生、博物の富田^(※10)、山家^(※11)両先生など、熱心さ特徴のある授業ぶりは終生忘れることができない。茶目時代の生徒は先生の愛称とともに先生に対する尊敬と信頼とをもっていた。

クラブ活動や郷友会の追憶

私どもが学んだ5年間は、県大会で柔剣道は最も強く、テニス、弁論でも優勝し、いつでも優勝旗の2、3本があつて、これが大きな誇りでもあった。その頃応援団は自転車隊が丸森、梁川、保原経由、徒歩隊は山上、霊山を経て福島へ、数十名が参加していた。私は徒歩隊に加わって60キロの道を午前4時出発、夕刻足裏が2倍にもものびた感じで、硬直した脚をひきずって福島市公会堂の和室に到着宿泊した。

日立木、磯部が同じ郷友区で夏休の一日、日下石浦（山信田浦）今は干拓されて田になっている
鷺松に竹竿1本、米1リットル持参して朝集合、数隻に分乗、上級生の指揮号令で松川浦まで競漕、
おのおの竹竿に願をこめて力漕また力漕。十二本松附近に窯をつくり昼食の準備、薪は各自松の枯
枝などを集める。空腹で力が抜けて幹に登れず、ずり落ちたり。焚きたての飯を大椀に頬張るのだ
が、1人1リットルの米飯だから、最後には立ったり、あぐらになったりして平らげるといふ算段。
牡蠣の藻焼も忘れ得ぬ美味だった。ある年は帰路大干潮にあい、どうとも漕ぎ切れず、素足で舟を
押して闇を帰宅したこともあった。こうして質実剛健の校風が培われ、また上級生が礼儀をやかま
しく注意指導、またこうした校外行事の計画など自立の精神がそれとなく養われて来たのである。

また若き情熱が爆発して憤りとなり、発火演習（一泊）の際の先生飲酒のことから私ども5年生
が授業ボイコットのストライキをしたこともある。これは卒業生先輩の好意から出た誤りで、関係
先輩の陳謝説得もあって光風霽月、さらりと流してふたたび勉強にとり組んだ歴史もある。若き情
熱は尊い。義憤も良い。正しい行動は更によい。ただ軽挙暴走はさけねばならぬ。新時代の若き力
で立派な校風を樹立することを期待したい。

雪のあしたなど急に全校生徒の高松山兎狩（兎追）を行なったことが思出された。

○兎追う連絡切れし草の風

（※1）「相中相高八十年」1978(昭和53)年5月7日発行、「想い出の記」より。

（※2）大正10（1921）年卒、日立木出身。

（※3）高橋 彌一 相中教諭 大正3（1914）年～大正10（1921）年。

（※4）佐藤 廣 相中教諭兼舎監 大正2（1913）年～大正6（1917）年。

又は 佐藤 正夫 相中助教諭心得 大正7（1918）年～大正12（1923）年

（※5）松岡 金助 相中教諭兼舎監 大正2（1913）年～昭和7（1932）年。

（※6）菊地伊三郎 相中教諭兼舎監 明治31（1898）年～大正14（1925）年。

（※7）吉成新太郎 相中教諭兼舎監 明治38（1905）年～大正7（1918）年。校歌作詞者。

（※8）小林大次郎 相中教諭兼舎監 大正7（1918）年～大正11（1922）年。

（※9）成田三千郎 相中教諭 明治31（1898）年～大正11（1922）年。

（※10）富田 重俊 相中教諭 大正7（1918）年～昭和13（1938）年。

（※11）山家鐵五郎 相中教諭 大正2（1913）年～大正7（1918）年。

（転記&※脚注 村山）